

宝塚市政記者クラブ各位

－第 18 回支援本部会議について－

- 1 開催日時 平成 23 年 8 月 22 日（月） 午後 4 時 30 分から
- 2 場 所 3－3 会議室
- 3 出席者 別紙参照
- 4 確認及び報告事項

(1) 宝塚希望応援隊派遣についての報告

- ・ 7 月 23 日（土）から 27 日（水）までの期間、第 4 次隊として宮城県気仙沼市へ市民大工ボランティアグループ「でえくさんず」7 名、社会福祉協議会職員 1 名の計 8 名が、仮設住宅の段差解消等の支援活動に従事した。参加者からは「コミュニケーション不足、資材の調達など苦労はあったが、現地に入ると仮設住宅特有のニーズがあり、要望に答えられて充実感をもって作業ができた。」との報告があった。
- ・ 8 月 1 日（月）から 4 日（木）までの間、第 5 次隊として宮城県南三陸町へ市民ボランティア 18 名、ボランティア活動センター職員 1 名、市職員 1 名の計 20 名が、家屋での瓦礫分別及び撤収に従事した。また同時に、教育委員会より預かったアトムプリント T シャツ、仁川幼稚園の寄せ書きを災害ボランティアセンターに届けた。
- ・ 8 月 5 日（金）から 8 日（月）までの間、第 6 次隊として宮城県南三陸町へ市民ボランティア 18 名、ボランティア活動センター職員 1 名、市職員 1 名の計 20 名が、瓦礫分別及び撤収、家屋の泥だし、病院での医療器具の撤去などに従事した。また同時に、支援物資として皮製手袋を災害ボランティアセンターに届けた。
- ・ 市民募集ボランティアの派遣となる、第 5、6 次隊では、前派遣でのボランティアのケガの教訓を生かし、全員に皮製手袋を配布するなどの措置をとったことにより、前回より危険な作業であったにもかかわらずケガ人が無く作業を終えることができた。
- ・ 宝塚市社会福祉協議会としては、「宝塚希望応援隊」の派遣は、今後、瓦礫処理、泥出しなどの派遣から仮設住宅にお住まいの方のサポートなど生活支援にシフトするよう市関係部署と調整をしていきたい。
- ・ 8 月 8 日（月）から 11 日（木）までの間、第 7 次隊として宮城県南三陸町と女川町へ宝塚少年少女合唱団 35 名、宝塚出身で落語家の林家染左さん、宝塚市文化振興財団職員 4 名の計 40 名が、音楽合唱と演芸落語による支援活動を行った。合唱や笑いは被災者の心の癒しになり、合唱団の子どもたちもたいへん貴重な経験ができた。

(2) 保健師の派遣

- ・ 兵庫県の保健師団として、7 月 14 日（木）～22（金）までの期間、宝塚市健康センター保健師職員 1 名が宮城県南三陸町で避難所等の被災者の健康相談及び熱中症や仮設住宅の健康調査などの業務に従事した。

(3) 塵芥収集職員の派遣

- ・ 阪神 3 市 1 町と宮城 2 市 2 町との災害応援活動協定に基づく職員の派遣として、8 月 6 日（土）～9 月 4 日（日）に南三陸町で、主に資源物ごみの回収、処理施設への資源物ゴミの搬送などに従事、宝塚市は 2t ダンプで主にビンの回収と気仙沼市へのダンボール

の搬送を担当している。

(4) 大船渡市中学生とのスポーツ交流

- ・ 8月1日(月)～4日(木)、8月7日(日)～10日(水)の2回に分けて岩手県大船渡市の中学生を宝塚に招き、本市中学生とサッカー、バレーボール、野球、バスケットボールなどのスポーツ交流を行った。また、本市出身のサッカー日本代表岡崎慎司選手のサイン入りユニホーム落札金で購入したサッカーボール48個、末広小学校児童会などからの義援金を贈った。

(5) 企画経営部職員が県看護師協会から被災地に派遣

- ・ 6月9日(木)～18日(土)までの期間、兵庫県看護協会チームの災害支援ナースの一員として宮城県気仙沼市の3箇所の避難所において看護、介護業務、衛生管理、心のケア活動に従事した。避難所の衛生管理では、3ヶ月敷き詰められていたダンボールの撤去、トイレの不衛生の改善など提案し一定の成果が得られた。

(6) その他確認事項

- ・ 全職員を対象に2回目として集めた義援金568,000円と1回目の残34,409円との合計602,409円を女川町へ贈る予定。
- ・ 全職員を対象に義援金とは別に集めた支援金68,200円については、歳入歳出予算へ計上し、宝塚希望応援隊の経費等の被災地への支援活動に当てる。
- ・ 8月20日に行われた「宝塚サマーフェスタ」にて東日本復興支援として南郷トマトジュース240本、純米酒カレー50箱、ネギ鯖缶詰108缶を宝塚青年会議所の手配で仕入れ販売。市職員も販売の手伝いをした。すべて完売し、70,600円の売上げがあった。当日、宝塚青年会議所が販売した会場内でお買い物ができるチャリティチケットからは21,000円の義援金があった。
- ・ 市内避難者数25世帯66名。(8/22現在)登録総数33世帯83人、内8世帯17名が避難を終了されている。

(今後の主な支援活動)

- ・ 阪神支援チームの建築職員中長期派遣として、9月1日から12月15日までの間、女川町へ都市整備部職員1名を派遣。
- ・ 友好都市支援である大船渡市は落ち着き始めているが、南三陸町では、町長の話しとして瓦礫処分はまだまだ時間がかかると聞いている。また、カウンターパートでの支援を行っている女川町、南三陸町でもボランティアのニーズがまだまだある。そういった意味でも宝塚希望応援隊派遣の見直しは、社協などと連携して地元のニーズを把握したうえで慎重にする必要がある。
- ・ 職員派遣については、被災地との信頼関係を築き、中身の濃い継続した支援を行う上で相当数の職員を計画的に派遣していくことが重要である。
- ・ 被災地では、避難所から仮設住宅に移られる人が少ないとの報告があったが、生活力の無い人が生活の不安等から避難所に残ることは、本市では阪神淡路大震災時に経験している。経済的に支えていくという意味での市民ボランティアなどの炊き出し支援も有効な手段である。

5 問い合わせ先

安全安心課

TEL 0797-77-2078 (直通)